

韓国語能力試験（TOPIK）の改編について

公益財団法人韓国教育財団

世界的に韓国語に対する関心が高まり、また韓国語能力試験の受験者数が持続的に増加している中、受験者のさまざまな要求に近づけるため、2014年10月に実施された第36回の試験より（韓国では7月に実施された第35回より）、韓国語能力試験の制度の一部が改編されました。

学習経験の少ない学習者には、気軽に自分の実力を確認できるよう比較的単純化させた TOPIK I（1～2級：旧初級）を、持続的に学習し続けた学習者には自分の実力がどの程度であるか確認できると同時に続けて語学力を高める事ができるよう旧試験の中級と高級を合わせた TOPIK II（3～6級）を受験できるようになっています。

また、試験領域、問題形式、合格基準なども変更されています。意思疎通能力の評価に重点を置き、書き取り問題（Ⅱのみ）では問題数を大幅に減らし文章作成能力を評価できるようにしました。

改編後の問題形式は、従来のものと大きく変わりません。よって、従来の過去問題集や対策本をそのまま活用していただいても試験対策の勉強に役立てる事ができます。

特に注意すべき点としては、Ⅱの書き取り問題ですが、1～2問目では文章の流れに適切な文章を答える設問が、3～4問目では日常生活と関連した文章と論理的な作文を書く設問が出題されます。この設問の評価に関しては複数の採点委員によって採点され、「語彙と文法が適切に使用されているか」「質問に対して適切な文面になっているか」などが重要な判断基準となります。

また、新形式の試験においての合格基準（Ⅰ、Ⅱ同様）は従来とは異なり、カテゴリ一別の落第点がなくなり、単純に取得した合計点で数字の級による合格が決定します。目安としては、Ⅰは80点以上、Ⅱは120点以上が合格ラインになります。

【試験の変更点】

第34回までの旧制度	
試験等級	初級（1・2級）
	中級（3・4級）
	高級（5・6級）
評価領域	各級共通
	全104～106問 ・語彙・文法：30問（選択式） ・書き取り：14～16問（うち選択式10問） ・聴き取り：30問（選択式） ・読解：30問（選択式）
試験時間	180分



第35回以降の新制度		
試験等級	TOPIK I	TOPIK II
	（旧制度初級1・2級）	（旧制度中級・高級3～6級）
評価領域	全70問 ・聴き取り30問（選択式） ・読解40問（選択式） ※従来の「語彙・文法」及び「書き取り」は廃止	全104問 ・聴き取り50問（選択式） ・読解50問（選択式） ・書き取り：作文含む文章形成式） ※従来の「語彙・文法」は廃止
試験時間	100分	180分

※「聴き取り」「読解」「書き取り」は設問数に違いはあるものの問題形式は従来通り

詳細については韓国教育財団のホームページ（<http://www.kref.or.jp>）に記載がありますのでご確認ください。